

製品名: CHOP (リン酸化 Ser30) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04462**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	19kDa

抗原情報

遺伝子名	DDIT3 DDIT3; CHOP; CHOP10; GADD153; DNA damage-inducible transcript 3 protein; DDIT-3;
別名	C/EBP-homologous protein; CHOP; C/EBP-homologous protein 10; CHOP-10; Growth arrest and DNA damage-inducible protein GADD153
遺伝子 ID	1649.0
SwissProt ID	P35638
免疫原	抗血清は、Ser30 のリン酸化部位周辺のヒト CHOP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 15-64

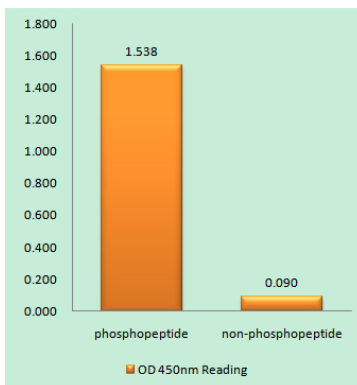
背景

この遺伝子は、CCAAT/エンハンサー結合タンパク質 (C/EBP) 転写因子ファミリーのメンバーをコードする。このタンパク質は、C/EBP や LAP (肝活性化タンパク質) などの他の C/EBP メンバーとヘテロ二量体を形成し、それらの DNA 結合活性を阻害することで、ドミナントネガティブ阻害因子として機能する。このタンパク質は脂肪形成および赤血球造血に関与し、小胞体ストレスによって活性化され、アポトーシスを促進する。この遺伝子と 16 番染色体の FUS または 22 番染色体の EWSR1 との転座誘導融合は、粘液性脂肪肉腫またはユーイング肉腫においてキメラタンパク質を生成する。異なる長さの 2 つのアイソフォームをコードする、複数の選択的スプライシング転写バリエントが同定されている。 [RefSeq 提供、2010 年 8 月],疾患: 悪性粘液性脂肪肉腫の一種 [MIM:126337]において、DDIT3 遺伝子に関連する染色体異常が認められる。転座 t(12;16)(q13;p11)と FUS を伴う。機能: DNA に結合できないヘテロダイマーを形成することで、C/EBP および LAP の DNA 結合活性を阻害する。類似性: bZIP ファミリーに属する。類似性: 1 つの bZIP ドメインを含む。サブユニット: ヘテロダイマー。 ,

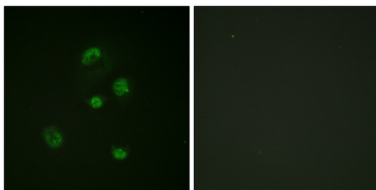
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;

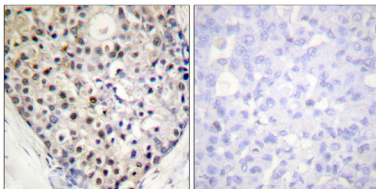
画像データ



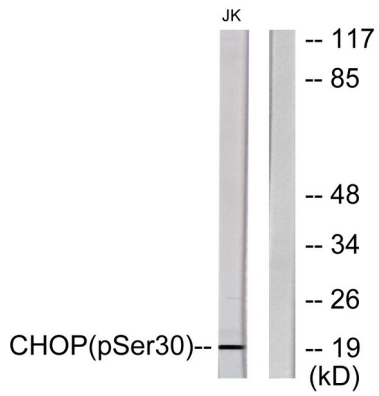
CHOP (リン酸化 Ser30) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



CHOP (リン酸化 Ser30) 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



CHOP (リン酸化 Ser30) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



PMA 125 ng/ml 30 μ L で処理した Jurkat 細胞ライセートの CHOP (リン酸化 Ser30) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。